地域・駅・新幹線ニュースレター

はっしん！ 新青森

青森県立青森西高等学校 Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School × 青森大学 AOMORI UNIVERSITY

2022年9月20日（火）
第35号 【FREE】
青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR東日本新青森駅
青森大学社会連携センター

「鉄道開業150年」10月14日

12月は新幹線八戸到達20周年

今年は日本に鉄道が開業してから150年目に当たります。JRグループは来年3月31日まで、さまざまな催しを展開しています。青森県にとっては東北新幹線開業から20年という記念すべき年でもあります。日本の社会を支え続けてきた鉄道の歴史と未来に思いをはせてみませんか。

JR東日本や国土交通省のホームページによると、1872（明治5）年、東京・新橋と横浜（現・桜木町駅）の間、29kmの区間に、日本で初めて鉄道が建設されました。10月14日に開業式を行い、翌15日に旅客輸送が始まりました。この歴史にちなんで1994年、10月14日は「鉄道の日」と定められました。

1889（明治22）年には現在の東海道本線に当たる新橋～神戸間が全線開業します。そのわずか2年後、1891年には上野～青森間が全線開業を迎えています。当時の鉄道は文明開化の象徴で、いわば現在の高速道路と新幹線の機能を併せ持った存在。いち早く本州北端まで到達していた事実に驚かされます。

今年は6月に東北新幹線が盛岡開業から40周年を迎え、12月には八戸開業・青森県到達から20周年という節目にも当たります。その東北新幹線では現在、2031年春の北海道新幹線・札幌延伸に向けて、試験車両「ALFA-X」が走行試験を重ねています（写真）。

かつての東北本線は、青森県内では「青い森鉄道」に姿を変えましたが、人を運ぶ役割は変わりません。

青森県や秋田県北の鉄道は、8月の豪雨によって、奥羽本線と五能線、津軽線が大きな被害を受けました。1日も早い復旧が待たれます。

JRグループの「鉄道開業150年」企画は2次元コードから特設ページをご覧下さい。

奥羽本線・津軽新城駅を新築

128年の歴史に区切り

奥羽本線で新青森駅の西隣に位置し、青森県立青森西高校の生徒たちの通学にも利用されてきた津軽新城駅（青森市）が建て替えられることになりました。

青森市史によると、津軽新城駅は1894（明治27）年、奥羽本線・弘前－青森間の開業と同時に開設されました。青森市は1945（昭和20）年の空襲で市街地のほとんどが焼失したことなどから、市内の公共的な建築物では数少ない、100年以上の歴史を持つ建造物です。

1963（昭和38）年、約1.2km西に青森県立青森西高等学校が開校すると、生徒たちの通学利用でにぎわいました。また、1970年代以降、駅が立地する新城地区の宅地開発が進み、通勤通学の利用が進みました。2016年の北海道新幹線開業以降は、奥羽線の列車の折り返し運転にも用いられてきました。

JR東日本秋田支社のリリースによると、新しい駅舎は今年12月下旬以降に開業します。

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく㉟

3年ぶり クルーズ船に「ようこそ！」

青森県立青森西高等学校の「青西おもてなし隊」が8月、3年ぶりに、青森港へ入港したクルーズ船の出迎えをしました。

新型コロナウイルス感染症拡大の前、青森港には年間延べ30隻近いクルーズ船が寄港し、歓迎行事はメーンの活動の一つでした。しかし、2020年度と2021年度は入港がほとんどなく、活動ができませんでした。

今年は8月4日の「ぱしふぃっくびいなす」入港で21人が、5日の「にっぽん丸」入港では16人が、手振りや旗振り、青森ねぶたの跳ね人（はねと）衣装での出迎えに参加しました。

隊長の太田美慧（みさと）さん（3年）は、ようやく体験できた出迎えに「とてもやりがいを感じました。おもてなしはする側もされる側もうれしい気持ちになる、すばらしい活動だと思います」と振り返りました。

2年の女子生徒は「物事が円滑に進むよう、市の担当者やおもてなし隊のメンバーとのコミュニケーションをしっかり取った。クルーズ船の乗客が市内観光するバスのガイドさんが、青森西高校出身の方で『後輩が頑張っている姿を見てうれしくなった』とおっしゃってくれたので、より精力的に活動しようと思った」と抱負を膨らませていました。

また、3年の女子生徒は「このような活動は初めてだったので、参加前は不安な気持ちが大きかった。しかし、担当の方が優しく接してくれたり、可愛いゆるキャラなどもいたり、リラックスして活動することができた。青森市の小野寺晃彦市長を筆頭にハネトとしておもてなしをして、船上から降りて来られた観光客の方が『ありがとう！』と言ってくださり、満足していただけて、楽しい活動になりました」と感激を語りました。

©2022 MOTOO KUSHIBIKI

<ご自由にお持ち帰り下さい>

ポスター等は許諾を得て使用しています

世界遺産登録1周年記念「北海道・北東北のJOMON」展

共通の世界観に注目

三内丸山遺跡

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録1周年記念特別展「北海道・北東北のJOMON」が10月2日（日）まで、三内丸山遺跡センターで開かれています。担当の佐藤真弓・文化財保護主幹（写真下）に、展示を見る際のポイントを教えていただきました。

◆

佐藤さんによると、今回の特別展は、1万年以上にわたる縄文時代を草創期（ステージⅠa）から晩期（ステージⅢb）まで6つの時期に分け、時代による土器や石器、骨角器の特徴の移り変わり、交流の証拠を解説しています。

さらに、「生業」「祭り・祈り・送り」というテーマ別に、縄文人の暮らしや意識を読み解きます。

これらの展示を通じて、海峡を挟んだ北海道と北東北が同じ文化を共有しながらも、地域性を強く感じさせ、さらには気候の変化も反映した出土品も確認できるそうです。

例えば、気候が温暖化した前期には、現在は東北以南にしか分布しないハマグリが北海道や北東北にも生息しており、北黄金貝塚（北海道伊達市）や二ツ森貝塚（青森県七戸町）から多数出土しています。

また、北海道は食生活における海獣や魚の割合が高く、漁労が盛んだった様子が、細工を凝らした入江貝塚（北海道洞爺湖町）出土の銛頭（もりがしら）や、北黄金貝塚から見つかったヤスからうかがえます。

漁労の比重が高い生活は、むし歯にも反映しているといいます。本州側はクリなどのデンプン質を多く取っていたため、むし歯になりやすく、北海道側は、むし歯の割合が低い傾向があるといいます。会場には三内丸山遺跡で出土した、むし歯の痕跡がある縄文人のきゅう歯（写真左中）が展示されています。

また、中期の後半、南東北の文化の影響が及んだ時は、北東北も北海道も、円筒土器が丸みを帯び、さらに4つだった口縁部の突起が、3つまたは6つという「3単位」へと変化していったといいます（写真上）。

佐藤さんは「企画を手がけて、当時の人々が共通の世界観を持っていたことがあらためて確認できました」と語っています。

観覧料は一般900円、高校・大学生450円、中学生以下は無料で、特別展の観覧料金で常設展も見ることができます。

青森県立美術館　企画展「ミナ ペルホネン／皆川明 つづく」

性別、世代超え「特別な日常服」体験を

デザイナー・皆川明（1967～）が設立したブランド『ミナ ペルホネン』を紹介する企画展「ミナ ペルホネン／皆川明　つづく」が10月2日（日）まで、青森県立美術館で開かれています（写真左）。担当の板倉容子主幹（写真右）に、企画展へのまなざしをうかがいました。

◇　◇　◇

「つづく」展は東京、兵庫、福岡に次いで4番目の開催地です。それぞれの会場に合わせて展示がアレンジされ、見え方や印象が異なります。

青森県立美術館はスタッフのユニフォームが「ミナ ペルホネン」によるもの。会場全体にスタッフが立っていることで、より親密な雰囲気が生まれていると感じます。

「根」「土」「風」などと名付けた「章」ごとに生地や衣服、インテリア、さらにデザイン原画や映像を展示してあります。青森県立美術館は隣接する三内丸山遺跡の発掘現場から着想し、「土」を床や壁に配しているので、企画展の狙いに合った会場と言えます。

特に、創作のアイデアを展示した「種」の展示室（写真下）を中心にそれぞれの「章」へとつづく導線により、ブランドの思想と創作のあり方がわかりやすく観覧できます。

クローバーをあしらった衣服に一つだけ四つ葉が隠れていたり、刺繍（ししゅう）を立体的に表現するというアイデアから生まれたテキスタイル（布地）があったり、さまざまな楽しみ方ができます。

子どもからシニア世代まで、幅広い世代に似合う衣服や作品が展示されていますが、特に若い人や男性にも見ていただき、「特別な日常服」の世界を体験していただければと思います。

◇　◇　◇

入場料は一般1,500円、高校生・大学生1,000円、小中学生は無料。詳しくは特設サイト（2次元コード）へ。

三内丸山遺跡センター

見学時間　9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
（6月1日～9月30日は18:00まで）
休館日　毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料　一般410円（330円）／高校・大学生等200円（160円）／中学生以下 無料
※（　）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット呈示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ　〒038-0031 青森市三内字丸山305
TEL.017-766-8282 ／ FAX.017-766-2365
URL https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp

青森県立美術館

開館時間　9:30～17:00（入場は16:30まで）
休館日　毎月第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
※企画展開催時、展示替等により変更する場合あり。
観覧料　一般510円（410円）／高校・大学生300円（240円）／小学生・中学生100円（80円）
※（　）内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット呈示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ　〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 ／ FAX.017-783-5244
URL https://www.aomori-museum.jp

新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約20分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分

Facebook ページ　Instagram アカウント

＜ネット情報＞
FacebookページとInstagramアカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ下さい。また、PDF版を青森大学社会連携センターのFacebookページに掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943　青森市幸畑2-3-1　青森大学社会学部
櫛引素夫　電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

FBページ　Instagram　青森大学社会連携センター

©2022　MOTOO KUSHIBIKI

＜ご自由にお持ち帰り下さい＞

ポスター等は許諾を得て使用しています